

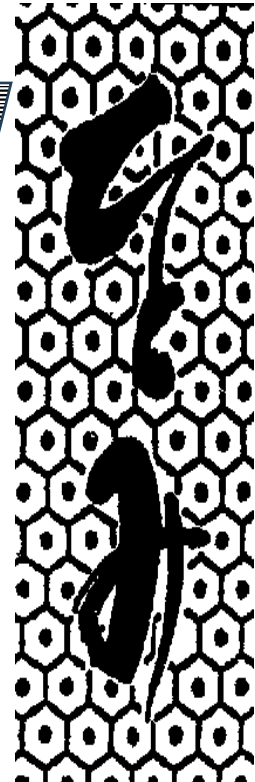
# 2023年度 市教委交渉

アンケートにご協力  
ありがとうございました。

今回の交渉には年度初めに集約したアンケートの声を市教委に伝えることができました。具体的な要求や困難な状況がよく分かり、担当課長もしっかり耳を傾けていました。

次号でアンケート結果を紹介しま  
す。引き続きよろしくお願ひします。

# 「働き方改革」、人員増なしで現場に工夫を求めな!



9月13日(水)に中区役所6F  
教育委員室にて、今年度の市教  
委交渉が行われました。これは  
5月25日に提出した教育要求  
書に対する市教委からの回答を  
もとに、重点をしばって行いま  
した。市教委からは川口学校教育  
部長以下、8名の課長が出席し  
ました。また、市教組(全教)から  
は多忙な中、22名が駆け付けて  
くれました。

交渉は、川口学校教育部長  
の、冒頭のあいさつで始まりまし  
た。

教育の危機を救えるのは

人員確保しかない!

(藤中委員長あいさつ要旨)



交渉団の先頭に立つ  
藤中委員長

「新任教諭 増える退職」という  
ニュースに驚いている。今の教育の  
危機的状況を中教審が分析し、緊  
急提言が出された。多忙化の原因  
は、「子どもの困難が多様化・複雑  
化していること」「学校に対する期  
待の現れ」の2点とされているが、  
その解消に向けては業務の効率  
化・省力化が語られ、これには非常  
に残念だった。今の教育の危機を  
救うためには、子どもの多様化に  
寄り添える人員確保。学校への期  
待に応えるための人員確保しかな  
い。厳しい財政状況と言われるが、  
今の危機的状態を救うための財源  
確保は行政の役割。ぜひ現場の声  
を受け、施策につなげてもらいた  
い。

子どもと向き合う時間を確保することで教育の質が高まる

7月に第2期の「学校における働き方改革推進プラン」を策定したと  
ころ。これまでの取組の成果などを踏まえ、整理して提示した。市教委  
としてはこれからも働き方改革を推進し、教職員の皆様が少しでも働き  
やすくするような環境になるように努めたいと考えている。教職員の皆  
様が心身の健康を保ち、限られた時間の中で子どもと向き合える環境  
を作ることで教育の質が高まっている。厳しい財政状況だが、皆さんか  
らの要求には真摯に対応させていただき、具現化にむけて努力したい。

(川口学校教育部長あいさつ要旨)



冒頭のあいさつ  
川口学校教育部長

休憩時間の確保と持ち帰り仕事の把握を!

在校等時間管理システム上の「休憩時間」の確保  
と休憩中の「業務」の把握を求めています。市教委か  
らは「先生方には休憩時間には不測の事態など子  
どもに自主的に寄り添っていただいている」とし、  
休憩時間の業務はあくまでも自主的業務だと把握  
に後ろ向きです。これに対し、市教組は「子どもの  
不測の事態に備えて待機している状態は休憩時間  
にあたらぬ」と指摘。持ち帰り仕事を含めて、教  
職員が休憩時間に行っていることや、どんな仕事を  
持ち帰っているのか、さらに、どうして持ち帰らない  
といけないかを個別具体的に捉えることなしに、業  
務の精査・削減はできないと訴え、教職員の働き方  
を把握してほしいと改めて要求しました。

上限時間設定には後ろ向き

再任用ハーフや後補充など勤務時間制非常勤講師の授業時間数が多  
すぎて、授業準備や提出物確認などが時間内に行えないという声が多く  
上がっており、市教委に上限時間の設定を求めました。教職員課長は「勤  
務時間の中で関連業務時間を取るが大原則で、そうならないのは  
問題だ」と課題意識を持ち、校長会でも確認するとし、個別の事例があ  
れば相談にのると回答しました。しかし、上限時間雄設定には後ろ向き  
でした。



英語専科の時間割調整を

本人にさせるな!

小学校の英語専科の方が困っ  
ています。現在フルタイムの方が  
28人いますが、その中で17人の  
方が3校掛け持ちとなっていま  
す。3校の間で時間割調整を本  
人に任されている実態がありま  
す。市教組(全教)は、時間割調整  
は基本的には管理職で行うこ  
と。少なくとも本人に丸投げしな  
いことを求めました。これに対し  
て、教職員課長は「管理職、また  
は時間割担当で調整する」とし、  
し、本人に委ねることのないよう  
校長会で伝えると明言しました。

非常勤講師の待遇改善を!

非常勤講師の勤務条件がここ数年  
前進しています。その中でテスト関連  
業務について条件付きで措置されたの  
は大きな前進でした。しかし、現場か  
らは時間措置されないのにテスト作成  
を求められている実態があり、市教委  
に措置の拡大を求めました。これに対  
して教職員課長  
は、「テスト作成  
については基本  
的には本務者が  
行い、その管理は  
管理職が行うべ  
き」としました。  
市教組(全教)は、  
学校の実態に寄  
り添い、あらため  
て措置条件の拡  
大を訴え、求めま  
した。



閉会のあいさつ  
中本副委員長

中本副委員長は閉会の挨拶で  
「今の人員ではもう学校は限  
界。とにかく人を増やすこと。ど  
うやって増やすか市教委も本気で  
考えてほしい。今は本務自体が一  
人の教員の手に余る量になってい  
る。最近では給特法の是非が論議さ  
れているが、本来は残業を命じて  
はいけないというもの。この実現の  
ためには人を増やすしかない。私  
たちは残業しなくても活き活き  
授業ができ、働ける条件がほし  
い。例えば授業持ち時間を決め  
て、人の確保をするなど。そのため  
の予算確保はすぐには無理でも、  
理想に近づけるための工夫を考え  
てもらいたい。教職員の勤務条件  
は子どもたちの教育条件だとい  
う考えは同じだと思うので、今後も  
引き続きよろしくお願ひしたい。」  
と述べました。

これに対して、小田調整担当課  
長は、「みなさんからの要求を聞き  
ながら、必要なものにはお金をか  
けていく。お金の使い方の優先順  
位がポイントだと思っている。そ  
のためには現場の話にも耳を傾け  
る必要があると思っており、実現  
できるものがあれば一つでも二つ  
でも前進できるように、今後も引き  
続き取り組んでいきたいと思っ  
ている。と閉会のあいさつを述べま  
した。



閉会あいさつ  
小田調整担当課長

# ICT教育については紛糾する場面も

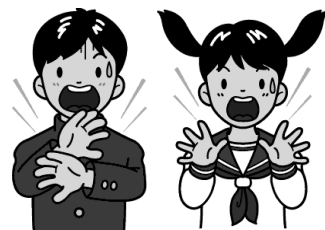
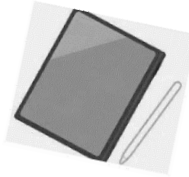
市教委がすすめるICT教育に対して、多くの学校から「担当教員の業務負担が大きい」という声が出ています。市教組(全教)は以前から専門の加配教員の措置を要求していますが、財政上の困難を理由に巡回支援に止めています。

市教委は「いまICT教育をすすめることは重要。限られた財源で担当教師の負担を減らすために何が出来るか検討しながらすすめている」としていますが、「ICT教育をすすめていく上で先生方に負担がかかっていることを知っているが、必要なことだから我慢してほしい」と言っているのか?と追及。担当課長は「そうではない。そうは言っていない。」と否定しましたが、実態をみれば明らかです。実際、非常勤講師へのタブレット端末は「予備機」です。さらに教材研究や評価で使用できるパソコンは台数が足りず、全く不十分な状態です。このような事例をあげ「これでも『そうではない』と言えるのか?」と追及。担当課長は、我慢を強いている状況を認めざるを得ませんでした。

本来であれば1つの施策を進めるとき、条件を整えて行うべきです。しかし、このGIGAスクール構想ではそうなっていない。

さらに、学校だけではなく、家庭にもしわ寄せが。家庭に充電ケーブルの購入を勧める学校やWi-Fi環境の整備を家庭に求める実態があるのです。このことを担当課長は「妥当ではない。不適切な行為」と明確に否定しました。しかし、学校がこのような対応に至った原因は、中途半端な条件整備のままにしている行政・市教委にあるのではないのでしょうか。

市教組(全教)はあらためてICT支援の人員配置と、非常勤講師への専用タブレット端末・パソコンなどの条件整備を求めました。



## 「予算はないが、我慢して頑張ってくれ」ということ!?

- ICT支援員の配置なしで、校内で得意な人?が担当者に
- 非常勤講師のタブレット端末は「予備機」で対応
- 臨時教職員のパソコンは一人一台が措置されず
- 家庭に「充電用ケーブル」の購入を求める?!
- 家庭にWi-fi環境整備を求める?!

## ハラスメント撲滅を!

### 「リーフレットを作成しています」

by 服務・健康管理担当課長

今回の交渉で服務・健康管理担当課長が「リーフレットを作成中です」とこれまでの市教組(全教)の要求に応じてくれました。

これまでも市教組(全教)はハラスメント対策の一つの方法としてリーフレットの作成を求めています。これに対して市教委は「教職員服務規程」にのっているの...と後ろ向きでした。

しかし、「冊子を開かなくても簡単に見ることが出来るリーフレットでハラスメントの具体例を分かりやすく提示し、さらに相談窓口へつなげる工夫をしてほしい」とねばり強く要求してきたことから実現しました。

まだ完成していないということでしたので、「ぜひデ



スクマットに入れていつでも見られる工夫をしてほしい」と重ねて要求しました。作成後はそれを使ったハラスメント研修など、校内で有効な使い方ができると思います。

# 特別支援学級

## 配置基準の定数に加えて、人員増を!

特別支援学級に関しては、まだ要求があります。それは特別支援学級の学級数を、教職員の定数配置基準に加えてほしいという内容です。現在は下の表のように広島市の学校教職員の配置基準が作られています。学級数には特別支援学級が含まれておらず、学級数と同じ担任の人数が配置されています。増えている特支学級を配置基準に加えることで、各校に教員が増員できるのです。これについて市教委は、「加えた時の増員分はすでに色々な施策の指定校加配として各校に配置しており、要求通りとなると、その加配の配置ができなくなる」と回答しています。

市教組(全教)は、「確かに今の加配が配置できないかもしれないが、特支学級数に応じて教員が増えることには変わりがなく、しかも、研究指定などの「紐付き」ではない教職員が増えることで研究授業などの業務もなくなり、現場が求める人員増に直接つながる」と訴えました。

そもそもどうして特別支援学級を定数からははずすのでしょうか?特別支援教育の軽視としか思えません。

(令和5年度広島市立小・中学校定数配置基準より)

【教諭等配置基準表】

学級数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
小学校	1	2	2	4	5	6	8	9	10	11	12	13	15	16	17	18	19	20	21	22
中学校	4	5	7	7	8	9	11	13	14	16	17	18	19	21	22	24	26	28	29	31
学級数	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
小学校	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	40	41	42	43	44
中学校	32	34	35	36	38	39	41	42	44	45	47	48	50	51	52	53	54	56	57	59

## 指導員の増員を!

特別支援学級がここ数年、下の表のように増加しています。しかし、指導員の人数は変化しておらず、しかも要求数には全く追いついていません。市教委は特アシ・学サポを増やして対応しているようですが、特アシ・学サポは主に授業中のサポートです。指導員は授業中だけでなく生活全般で特別支援学級の子どもをサポートしており、市教委の答弁では納得できません。これからの特別支援学級の増加は見込まれます。一人ひとりの子どもに多様な性に寄り添うために、市教組(全教)は改めて指導員の大幅な増員を求めていきます。



年度	特支クラス数	指導員人数	特支アシスタント・学習サポーター人数
2021	小 438 中 159	小 225 中 74	小 435.5 中 164
2022	小 482 中 169	小 226 (要望:397) 中 74 (要望: )	小 442 中 175
2023	小 516 中 190	小 226 (要望:413) 中 74 (要望:140)	小 451.5 中 176.5